



# 第1章 西尾市の概要

## 1. 位置と地勢

西尾市は愛知県のほぼ中央を北から南へ流れる矢作川流域の南端に位置し、面積は160.34 km<sup>2</sup>で、愛知県全体の3.1%を占めています。

中部圏の中心である名古屋市の45 km圏域にあり、東は蒲郡市、幸田町、北は岡崎市、安城市、西は碧南市と接し、南は三河湾に面しています。

矢作川が形成した岡崎平野の最下流域にあり、矢作川のかつての本流（現矢作古川）に沿って形成された標高10 mまでの低地が広がっています。東部は標高348.8 mの主峰三ヶ根山を頂点とする山地で、また三河湾内には、有人離島の佐久島や無人離島の梶島、前島、沖島が点在しています。



## 2. 自然と歴史・文化

気候は太平洋側気候で温暖です。真冬でも氷点下になることはまれで、降雨量もそれほど多くなく過ごしやすい地域です。三ヶ根山と湾内の諸島を含む一帯は、三河湾国定公園に指定され、風光明媚な行楽地となっています。

矢作川の堆積作用で形成された肥沃な平地には、その温暖な気候と相まって古くは縄文のころより人の暮らしが営まれていました。江戸時代には西尾藩とその周囲のさまざまな領主の所領となっていまし



三ヶ根山から三河湾を望む

西尾祇園祭の大名行列



た。西尾藩は明和元年（1764年）に松平家の居城になると六万石の城下町として大いに賑わいをみせ、今も当時の城下町のなごりを残しています。

西尾市の歴史は古く、国宝の金蓮寺弥陀堂をはじめ、「忠臣蔵」で有名な吉良上野介義央公にまつわる史跡や文化財が数多く残されています。そして、約40

0年の歴史を持つ「西尾祇園祭」をはじめ、天下の奇祭と称される「てんてこ祭」、最大10mの提灯が立ち並ぶ「大提灯まつり」、国指定重要無形民俗文化財に指定されている「鳥羽の火祭り」など、伝統的な祭りが数多く伝承されていることも特徴です。

また、小説『人生劇場』で名高い尾崎士郎や日本を代表する女性詩人茨木のり子など、優れた文学者を輩出しています。



鳥羽の火祭り (国指定重要無形民俗文化財)

### 3. 人口と世帯・年齢構成

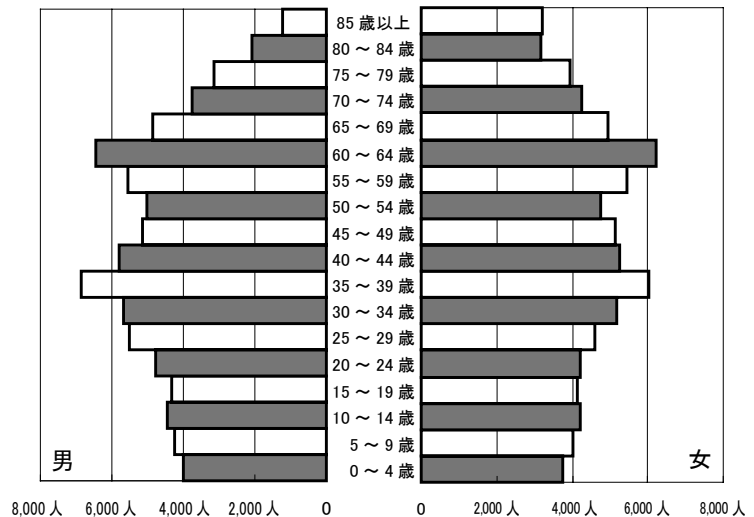
国勢調査（平成22年）によると、平成22年の人口は約16万5,000人です。人口は増加を続けており、平成17年と比べると約2,000人の増加となっています。外国人人口については、平成23年4月1日現在で5,360人となっています。

また、平成22年の世帯数は約5万4,000世帯です。世帯数は核家族化や単身世帯の増加などによって増加を続けています。

平成22年の年齢3区分別人口では、65歳以上の老年人口比は20.9%と増加傾向となっており、15歳未満の年少人口比は14.9%と減少傾向であり、少子高齢化が進展しています。15歳以上65歳未満の生産年齢人口についても、平成22年には64.1%まで低下しています。ただし、少子高齢化の進展は全国の値と比べるとやや遅いといえます。

西尾市の年齢構成 (平成22年国勢調査より)

【5歳階級別人口割合】



【3区分別人口割合】

